

# 「3.24 老朽原発うごかすな！高浜全国集会」の報告とお礼

標記の集会は「原発うごかすな！実行委員会@関西・福井」の主催で、800を超える団体、個人のご賛同を得て、3月24日(日)午後2時より原発立地の高浜町で開催されました。350名を超えるご参加をいただき、若狭、京都北部、滋賀北部の市や町の代表、関西、福井をはじめとする全国の市民団体、労働団体からの「老朽原発うごかすな！」の強い決意の表明をいただきました。集会後、高浜町内をデモ行進し、町内の皆さんに「老朽原発廃炉！。原発全廃！」を訴えました。

一方、全国集会に先立つ11時30分より開催された原発周辺での前段行動（「若狭の原発を考える会」の呼びかけで、有志が参加）には220名のご参加をいただき、300mのデモの後、原発北ゲート前で抗議行動と申し入れを行いました。

**ご参加、ご賛同、ご支援をいただきました皆様に、  
深く感謝し、お礼申し上げます。**

**裏面に「たんぽぽ舎ボランティア」青山晴江さんの集会報告を許可を得て掲載**



2019年3月25日朝日新聞朝刊



2019年3月25日毎日新聞朝刊



2019年3月26日福井新聞朝刊



**3月31日(日) 10時から  
「老朽原発うごかすな！鴨川1人デモ」  
川端丸太町の鴨川河川敷を出発・新幹線下まで（希望者は京都ユニオンの花見に合流）**

## 3.24 老朽原発うごかすな！高浜全国集会に参加して

青山晴江（たんぽぽ舎ボランティア、  
「再稼働阻止全国ネットワーク」）

3月24日(日)、「老朽原発動かすな！高浜全国集会」（主催：原発うごかすな！実行委員会@関西・福井）の様子をお伝えします。

◎ 3月24日朝8時半、京都駅前から出発したバスは53名、補助席も使用。滋賀、大阪からもバスが出ている。顔見知りの人もいるが、高浜に行くのは初めてという女性たちも多い。

11時過ぎ、関西電力高浜原発前に到着。ゲート前にもう1つの新しいトンネル道が完成していたが、避難用とのこと。老朽1、2号機が再稼働準備のため、足場を組んでものものしい工事中。その先に稼働中の3、4号機が見える。

雪予報も出ていたが、デモ出発の頃には雨も止んで晴れてきた。220人ほどが参集。木原さんの「老朽原発動かすな、の断固とした決意を示したい。京都駅まで60kmほど、大事故が起きれば関西圏500万人以上が永遠に故郷をなくす。第2のフクシマを作ってはならない。」というあいさつの後、ゲート前までコールしながらデモ、関西電力に申入れ書を提出。

◎ 午後の全国集会は、高浜町文化会館で。バスで駅前を通るときパチンコ店アトムとかお弁当の美味しいスーパーや新設の町役場など、「再稼働阻止全国ネットワーク」やたんぽぽ舎の人たちと来た町並みが懐かしかった。

会場で配布のプログラムは数分刻みの予定がぎっしり。木原さんのあいさつの後、中野哲演さん。茨城県の東海第二原発(日本原電)の地元からと新潟県柏崎刈羽原発の地元からはメッセージが読み上げられた。

「再稼働阻止全国ネットワーク」とたんぽぽ舎のボランティアとして壇上に上がった私は、3分の持ち時間で、首都圏の東海第二老朽原発動かすな！のデモや原電本店ヒューマンチェーン抗議行動など伝え、今年の3・11に見た福島県浜通りの事、そして地元高浜で45年ほど前に反原発の詩を果敢に書き若くしてガンで亡くなった女性詩人(大西ひとみさん)の詩を朗読させてもらった。

続いて「脱原発アクション in 香川」の溝渕さんから、伊方原発の現状や裁判のことなど報告された。名古屋の老朽原発廃炉訴訟の当事者報告では弁護団も含め9人が壇上に上がり、事故が起きれば風向きで名古屋まで放射能は到達する、ただでさえ危ない原発に老朽というリスクが重なる再稼働に、自分たちも当事者として、真剣に向き合わなくてはとの思いで、裁判を闘っていると話された。

◎ 地元の部では綾部市のメッセージの他、9市町の方々が登壇、報告された。宮津、舞鶴、高浜、おおい、小浜、若狭、美浜、敦賀、高島など。福井県、滋賀県、京都府にまたがるこれら広範囲の地域の人々のつながりは権力者にとっては脅威になるだろう。

地元高浜の東山さんは、「老朽1、2号機はやめてほしい」という町民の声を紹介し、クレーン事故などがあり、関西電力は再稼働を延ばさざるをえないようだと言った。敦賀市の方の「もんじゅ・つるが・ふげん」の話の中で、「廃炉が決まっても放射能の危険と向き合っていかなければならない現状」の話が印象に残った。

最後は5つの労働組合から。関西生コンへの弾圧、チラシを撒いて、今も9人が200日以上も拘留、「明日は我が身」と思って闘っている話。再稼働に巨額の費用をかけているが、そのなかには被ばくの費用はない、働く人たちの安全が担保されていないのが原発の現場だ、という話が心に響いた。

◎ 集会決議、シュプレヒコールの後、350人ほどが高浜町の通りへデモに出発。

窓を開けてのぞく人、家の前で見つめる男性、腰をかがめて「ご苦労さまです」と声かけしてくれる老婦人、日曜の原発現地の夕暮れに、色とりどりのノボリ旗がひるがえり、さまざまな思いが交差した。

中高年の参加者の中に、乳母車の男の子がいたのが微笑ましかった。この男の子が大きくなる頃には、全国で、世界中で原発廃炉作業が行われていますようにと祈らずにはいられない。